

吉見町版スーパー・シティプロジェクト ～未来へつなぐ みんなで安心して暮らせるまちよしみ～ 地域まちづくり計画

令和8年9月
吉見町



吉見町PR大使
よしみん

取組の概要

まちづくりにおける課題

本町には鉄道駅がなく、商店街や中心となる拠点が存在しないため、町民の生活・消費活動の多くが町外に依存している状況にある。

また、路線バスの運行本数や運行エリアも限られるなど公共交通網が十分とは言えないことから、高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段の確保が課題となっており、生活利便性の向上が求められている。

さらに、近年激甚化・頻発化する自然災害に対し、住民の生命・身体
の安全確保や防災体制の強化も急務となっている。

まちづくりの方向性

町民の移動手段を確保するとともに、「道の駅いちごの里よしみ」を核として、町民が交流できる魅力ある「にぎわいの場」を創出し、安心して暮らせるまちづくりに取り組む。

さらに、近年激甚化・頻発化する自然災害に対し、住民の生命や防災体制の強化を図り、災害に強いまちづくりを推進する。

加えて、大和田地区産業団地の整備による産業の活性化を図るとともに、周辺地域との連携のもと、防災面にも配慮しながら、農業・商業・観光等が連携した拠点の形成や先端技術の活用により、若者世代のニーズも満たし、誰もが「好き」「住みやすい」「住み続けたい」と
思える吉見町の実現を目指す。

他の計画における位置付け

- ・第六次吉見町総合振興計画
- ・吉見町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・吉見町都市計画マスタープラン
- ・吉見町町民行動基本計画
- ・吉見町地域防災計画

対象地域及び区域

- ・吉見町全域
- （重点区域：「道の駅いちごの里よしみ」周辺）

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

本町の人口は、令和7年時点で約1.7万人となっており、平成12年の約2.2万人をピークに減少傾向が続いている。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年には人口が約1.1万人まで減少し、高齢者は約4,000人を超えると予測されている。

世帯数については、高齢者世帯の増加により横ばい傾向にあるが、地域コミュニティの希薄化や高齢者の見守りニーズの高まりが顕著となっている。

また、生産年齢人口の減少により、地域産業やコミュニティ活動の担い手不足も深刻化しており、定住人口の確保に向けた対策が求められている。

地域交通の状況

本町には鉄道駅がなく、町民の移動手段の多くを自家用車に依存している状況にある。

公共交通としては、町内全域をカバーする「吉見町デマンド型交通」が運行されており、高齢者等の重要な移動手段となっている。

しかし、電話予約が中心であるため利便性に課題がある。そのため、将来的な需要増加に対応するため、AI配車システムの導入や運行効率化が必要である。

一方、広域アクセスについては、圏央道川島ICや関越道東松山ICに近接しており、車でのアクセス性は非常に高い立地特性を有している。

しかし、町内の移動においては、公共交通の空白地域や便数の少なさが課題となっており、高齢者の免許返納後の移動手段確保が急務となっている。

開発の状況

新たな産業拠点として、約17haの規模を誇る「大和田地区産業団地」の整備が進められており、令和10年度の完成を目指している。これにより、優良企業の誘致と新たな雇用の創出、税收の増加が期待される。

また、当該地区には、防災機能を備えた公園等が整備されるため、地域の防災機能の向上も期待されている。

「道の駅いちごの里よしみ」は、年間約100万人が訪れる県内有数の集客拠点であるが、施設の老朽化や駐車場不足、防災機能の不足などの課題も抱えている。

また、「道の駅いちごの里よしみ」の周辺においては、広域幹線道路の交通結節点である立地特性等を生かし、町の中心拠点にふさわしく利便性の高い、にぎわいのある魅力的な産業交流拠点の形成を目指している。

地域資源

県内トップクラスの生産量を誇る「いちご」は本町のシンボルであり、道の駅や町内の観光農園にはシーズンを通して多くの方々が訪れる。

しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足により、生産基盤の維持が課題となっている。

また、国指定史跡「吉見百穴」、豊かな自然環境を活かしたサイクリングロードや、町唯一の宿泊施設であるフレンドシップ・ハイツよしみなど、観光・レクリエーション資源が豊富であるが、これらの資源が点在しており、回遊性が低いことが課題である。

今後は、スマートモビリティ等を活用し、各拠点を有機的に結びつけることで、町全体の回遊性向上を図る必要がある。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

「未来へつなぐ みんなで安心して暮らせるまちよしみ」
～道の駅を核に、人と地域がつながる田園都市～

町民の移動手段を確保し、道の駅「いちごの里よしみ」を核として、町民が交流できる魅力ある「にぎわいの場」を創出し、安心して暮らせるとともに、再生可能エネルギーの活用やデジタル技術の導入などにより、災害に強いまちづくりに取り組む。

加えて、道の駅周辺における産業・農業・商業・観光等が連携した拠点の形成や、生活を支える身近なデジタル技術の活用により、若者世代のニーズも満たし、誰もが「好き」「住みやすい」「住み続けたい」と思える吉見町の実現を目指す。

推進体制

本プロジェクトの推進にあたっては、担当課を中心に、関係各課が参画する庁内横断の推進体制を構築し、全庁一体となって取り組む。

あわせて、商工会、農業協同組合、交通事業者、地域団体等との連携により、産官学を含む多様なまちづくり関連団体との協働を図る。

また、事業の進捗や課題に応じて、有識者等の参画を得た協議会等の設置については、その必要性を含め、今後検討していく。

事業全体の概要

- 【コンパクト】拠点形成と道の駅を中心としたにぎわいの創出**
- 道の駅周辺の空間整備や機能拡充による、農業・観光・地域交流が一体となった多世代交流拠点の形成
 - 大和田地区産業団地の整備・立地を見据えた官民連携による賑わい創出
 - 小学校統合再編に伴う教育機能の集約と学校跡地の利活用により、地域の新たな活力の創出
- 【スマート】くらしを支えるデジタル技術の活用**
- デジタル技術を活用したデマンド型交通の利便性向上や、新たなモビリティサービスの導入を推進
 - 農業の生産性向上に向け、スマート農業の導入を推進
 - 行政DXの推進やデジタルツールを用いた迅速な情報発信体制の構築
- 【レジリエント】地域をつくる安心安全なまちづくり**
- 道の駅や指定避難所等における再生可能エネルギー設備の導入による災害時の電源確保
 - デジタル技術を活用した河川や避難所の状況の可視化、および民間企業との災害協定等を通じた災害時の体制整備
 - 自主防災組織の活動支援等による、地域全体の防災力の向上

計画図

庁舎

スマート

行政手続きのオンライン窓口
デジタル化を推進

レジリエント

デジタル技術で防災情報の
可視化(リアルタイム)



雨量情報の発信

エリア全体

コンパクト

小学校統合に伴う跡地の利活用

スマート

- ・デマンド型交通にデジタル予約・配車の導入による利便性と運行効率の向上
- ・スマート農業の推進



デマンド型交通



スマート農業の推進

レジリエント

再エネ・蓄電設備の導入を検討し、災害時の電源を確保



中心拠点

コンパクト

道の駅いちごの里よしみ周辺の空間整備や機能拡充とあわせ、農業・観光・地域交流が一体となった交流拠点の形成



都市機能の集約(農業・商業・観光)

産業拠点

コンパクト

大和田地区産業団地と連携し、雇用促進や地域交流の創出



大和田地区産業団地

【コンパクト】事業一覧

[illegible]

【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
デマンド型交通の利便性向上	町・民間	既存のデマンド型交通にデジタル技術を活用した予約・配車手法の導入を検討し、利便性と運行効率の向上を図る。あわせて新たなモビリティサービスの導入可能性を検証する。	【デマンド型交通】 検討・設計			導入・運用			
						【新たなモビリティ】 検討			
スマート農業の推進	町・JA・農家	将来的な農業従事者の減少を見据え、デジタル技術や先端機器の導入可能性について、先進事例の調査や情報収集を行う。地域の実情に合った高度化・効率化技術のあり方を研究し、持続可能な農業に向けた検討を行う。	情報収集・調査			研究・検討			
行政DXの推進とデジタル情報発信	町	行政手続きのオンライン化や窓口業務のデジタル化を推進し、住民サービスの向上と業務効率化を図る。また、デジタルツールを活用し、防災・地域情報を迅速かつ的確に発信する仕組みを構築する。	導入・構築						
デジタル技術を活用した防災情報の可視化	町	河川や避難所の状況をリアルタイムで把握・共有できる仕組みの構築を検討する。デジタル技術で防災情報を可視化し、住民の迅速かつ確かな避難行動を支援する環境を整備する。	検討・構築						

【レジリエント】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
地域防災拠点におけるエネルギー確保	町・民間	道の駅や指定避難所などにおいて、再生可能エネルギーや蓄電設備の導入を検討し、災害時の電源確保を図る。	調査・設置・運用						
【再掲】デジタル技術を活用した防災情報の可視化	町	河川や避難所の状況をリアルタイムで把握・共有できる仕組みの構築を検討する。デジタル技術で防災情報を可視化し、住民の迅速かつ的確な避難行動を支援する環境を整備する。	構築・運用						
自主防災組織の活動支援と地域防災力の向上	町・町民	各地域の自主防災組織の活動を支援し、資機材整備や実践的な訓練機会の充実を図ることで、継続的な活動の実施を促進する。また、多様な視点を取り入れた避難所運営のあり方を検討し、地域全体の防災力の底上げを図る。	支援・訓練・改善						
民間企業との災害協定の推進	町・民間	民間企業との災害協定の締結を推進し、災害時における支援体制の確保など、迅速かつ円滑な応急対応体制の整備を図る。	調整・検討・締結・取組						

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	「吉見町に住みたい」と思う町民の割合	64% (令和7年度)	65% (令和13年度)	第六次吉見町総合振興計画・後期基本計画に基づく指標
コンパクト・スマート	デマンド型交通年間乗車人数	7, 808人 (令和7年度)	69, 333人(累計) (令和13年度)	第六次吉見町総合振興計画・後期基本計画に基づく指標
コンパクト	道の駅いちごの里よしみ年間利用者数	880, 000人 (令和7年度)	6, 580, 000人(累計) (令和13年度)	
レジリエント	自主防災組織における年間活動回数	36回 (令和7年度)	336回(累計) (令和13年度)	